



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラク：国会の会合再開延期 (7月12日付AFP通信、ロイター通信他)

1. イラク国会は6月14日に開会したが、その後休会したままとなっている。7月12日、イラク国会の会合再開が2週間延期されることが決定された。7月12日付AFP通信とロイター通信は、次のように報じている。
  - (1) イラクの政治リーダーは、13日に予定されていた国会の会合再開を2週間延期することを決定した。これは、首相ポストを含む新政権樹立に進展がないことによる。
  - (2) 憲法の規定によれば、7月14日までに大統領と議長を選出しなければならないが、その期限に間に合わず、この延期の決定により憲法規定外の領域に入った。
  - (3) 憲法違反、憲法の軽視を懸念する議員も現れている。
2. 国会会合再開の延期に関する主要政治家の発言 (13日付サバーハ紙)
  - (1) マフムード・オスマーン議員 (クルドグループ連合)

再開延期は憲法に反している。また、これは、議会内の最大ブロックが憲法よりも大きな存在になっていること、彼らが憲法上のタイムフレームを無視し、状況を望むままにできることを示している。
  - (2) ジャマール・バツティーハ議員 (イラーキーヤ)

再開延期は憲法に則ったステップではない。しかし、主要政治グループは新政権の要職 (大統領、首相、国会議長など) の分配に合意することができなかった。
  - (3) アムジャド・ドーリー国会事務局長

再開を2週間延期するという決定は、各政治グループが参加して数時間にわたる協議および意見交換を行った後になされた。